

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
高村学人			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
森 隆知		立命館大学 政策科学部 政策科学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域環境調査	RMKd-130801-2	50人	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：  
 毎回グループワークでの課題を与え、予備調査に基づく仮説の作成、調査の企画、調査票の設計、データ分析、報告書の執筆のいずれの過程においても主体的な役割を学生は発揮した。

## II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：  
京都市清酒乾杯促進条例の普及過程の調査研究／地域社会学ないし法社会学
2. 調査の内容／概要：  
大学キャンパス周辺エリアを対象とした地域デザイン調査科目と連携しながら、当授業では大学キャンパスが所在する京都市において2013年1月から実施された清酒乾杯促進条例がどのような効果を生んでいるか、を、学生自身が市内随所を訪問し、予備調査、聞き取り調査、調査票調査を行うことで、検証した。
3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：  
京都市内で宴会機能を持つ全ホテル（22のうち調査協力は15ホテル）に対して調査票調査を実施。和食飲食店、条例制定者である市議会議員、酒造組合、酒造メーカー、神社へも学生が聞き取り調査を実施
4. 主な調査項目：  
条例の認知度、清酒乾杯実施の頻度、宴会利用者の属性、条例の趣旨に沿った行動の有無、条例への意見等を調査。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：  
宴会機能付きのホテルに対しては、学生が調査票を持参し、自記式で回答を得た。聞き取り調査は、学生が現場に赴き実施した。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：  
2013年10月～2013年12月・京都市・実査に参加したのは約30名
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：  
ホテルについては、全数調査で実施し、68.2%の回収率を得た。データ数は少ないが、全数調査かつ高回収率であり、清酒乾杯条例がフォーマルな宴会での乾杯場面においてどのように影響を与えているか、を把握することができたと思える。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：  
ホテル調査については、調査票設計時に立てた仮説を検証するためクロス集計を行った。聞き取り調査のデータについては、仮説のバックボーンにある「法の表出機能論」に依拠しながら、条例をめぐる当事者の語りを質的に分析した。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：  
清酒による乾杯実施は、広がっているが、その理由は、条例の趣旨への賛同ではなく、宴会の場に役所や政治家などの出席がありうるというお上の目を意識したものであるということがわかった。
10. 報告書刊行の予定と概要：  
添付した報告書は、調査協力者全員に郵送配布した。調査協力者からのコメントを待った上で所属機関のディスカッションペーパーとして刊行する計画を立てている。